



▶ お客様の大切なマーケティングデータを
“事故ゼロ”で守り抜いてきた実績に貢献



株式会社シャノン

- 事業内容
マーケティング業務の自動化・効率化と統合的なデータ管理により、戦略的なコミュニケーションを実現するクラウドアプリケーション「SHANON MARKETING PLATFORM」の提供を始め、イベントやセミナーまでお客様のマーケティング活動を幅広く支援。“マーケティングオートメーション”などの最新のソリューションにも積極的に取り組んでいます。
- 本店所在地
東京都
- 利用環境
PC 200台
- 利用製品
Kaspersky Endpoint Security
Kaspersky Security Center



株式会社シャノン
藤倉 和明 氏



株式会社シャノン
佐川 友香 氏

シャノンでは2011年からカスペルスキーを活用し、社内にあるクライアント端末の統合管理を実践。“年200回”ものセキュリティ監査を難なくクリアする安全性で、お客様に安心を提供してきました。

株式会社シャノンは、マーケティングオートメーションクラウドを販売し、イベントマーケティングやマーケティングコンサルティング事業を展開。現在シェアは5年連続No.1。テクノロジーとサイエンスで企業のマーケティングの課題を解決する会社です。

見込み客/顧客の情報から、イベント・セミナーの運用管理など、お客様のマーケティング活動のあらゆる側面に生じる貴重なマーケティングデータを扱う同社では、従来からサイバーセキュリティの徹底に尽力してきました。

サイバーセキュリティは終わりのない課題であり、多くの企業・組織が被害に遭っています。

そうした中、同社では長きにわたって、お客様のデータを安全に管理。「念には念を」と願う顧客からの要請によって、多い時には年に200回も実施されたセキュリティ監査を、常にクリアしてきました。

情報漏えいを防ぐために必要な、多層的な機能を早くから備えていたのは、カスペルスキーだけ

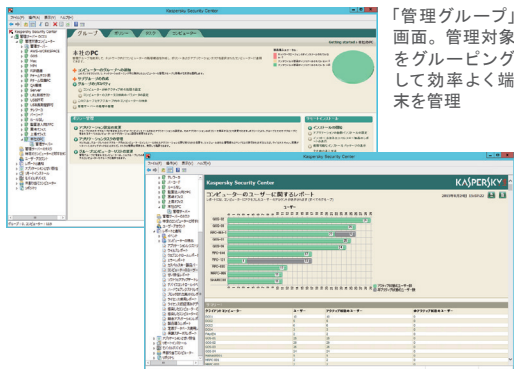
シャノン 藤倉和明氏は、「こうして安心できる環境が維持できていることに対し、カスペルスキーの存在意義は大きい」と説明します。

「当社では、2011年からKaspersky Endpoint SecurityとKaspersky Security Centerを活用して、社内にあるPCなどのクライアント端末を統合管理してきました。やはり、今注目されるようになってきた標的型攻撃などに備えるためにも、端末のマルウェア対策は欠かせませんし、社内の全端末の稼働状況を私たち管理者がしっかりと管理することも必要不可欠です。カスペルスキーの製品を活用すれば、望んでいた環境がすべて実現します」採用に至った理由は、「他を大きく引き離す、機能の充実」にあったと氏は続けます。

「クライアント端末の統合管理を可能にするサービスは他社からも出ていますが、私たちが導入時に比較した時点では、カスペルスキーの製品がもっとも機能が充実しており、外付けメモリーなどのUSB デバイスの使用制限や、P2Pソフトの起動を阻止する機能まで揃っており、申し分なかったのです」

USBデバイスの使用制限など、多彩な機能を備えていることが、非常に大きな価値を生んでいます。

「個人情報漏えいの事故が発生する原因の多くは、端末の紛失、盗難や内部犯によるデータの持ち出しです。そうしたニュースが世間を賑わせるたびに、当社にもお客様から『大丈夫か?』と問い合わせをいただきますが、カスペルスキーで構築・運用しているセキュリティ環境などについて説明すると、大抵はすぐに安心していただけます。特に金融機関のお客様にもご納得いただけたことは、私たちの自信にもつながっています」(藤倉氏)



「管理グループ」画面。管理対象をグルーピングして効率よく端末を管理

「コンピューターのユーザーに関するレポート」画面。リアルタイムかつグラフィカルに状況を確認できる



SECURITY 疑わしき端末があれば、 即座に対処

「部署によっては業務上、さまざまなWebサイトを閲覧する必要がありますので、アドウェアやスパイウェアは、確実に検知され、即座に隔離・駆除の報告が管理画面に現れます」(藤倉氏)



SUPPORT 日本人スタッフが、 無償で無制限に対応

「ほんの些細なことでも、質問すると丁寧に答えてくれます。電話でもメールでも、回数の制限もなく、何でも教えてもらえます。これが無償のサービスというのは、非常にありがたいです」(佐川氏)



USABILITY 運用の半自動化と、グラフィカルなレポート機能

「特にインシデントがなければ、管理画面を週に1回チェックする程度で、問題なく運用できます。全体の状況などは、分かりやすくグラフにまとめられているので、報告業務も簡単に終わります」(佐川氏)



SCALABILITY ソフトウェア資産管理や 脆弱性管理まで統合可能

「現在の環境にKaspersky Systems Managementを追加すれば、社内のソフト資産管理や、アプリケーションの脆弱性までまとめて管理できるようになります。投資対効果も非常に高いと期待しています」(藤倉氏)

「動作の軽快さ」「検知・対処能力の高さ」そして「統合管理機能の充実」など、あらゆる面に満足

実は、シャノンでは2011年にカスペルスキーを採用するまでに、異なる3社が提供するアンチウイルスソフトを利用してきた経緯があります。それぞれ、採用を取りやめるに至った理由は、下記の通りです。

■ 他社製品の使用を止めた理由

- ・1つ目：「挙動が重く、PCの操作が妨げられ、業務の邪魔になった」
- ・2つ目：「深刻な影響のあるマルウェアを、検出できなかった」
- ・3つ目：「社員が100名を超え、端末を統合管理する必要が生じた」

そして、2011年にカスペルスキーが採用された理由は前述の通り、USBデバイスの機能制限など、ほかにはない機能が揃っていたことがポイントとなっていました。

実はシャノンでは、カスペルスキーのライセンス更新を迎えた2013年に改めて他社製品との比較検討を行っていますが「結局のところ、他社製品に乗り換えるべき理由が、何も見つからなかった」と言います。

「2013年当時、クラウドサービスも含めて、数種類を比較検討しましたが、細かなログの取得やリモートメンテナンスなど、やはりカスペルスキーが一番、機能が豊富でした。そもそも、PCの動作に負担をかけている様子がない上に、マルウェアや疑わしいプログラムを確実に検知し、駆除することができていました。使っていて何の不満もなかったのです」(藤倉氏)

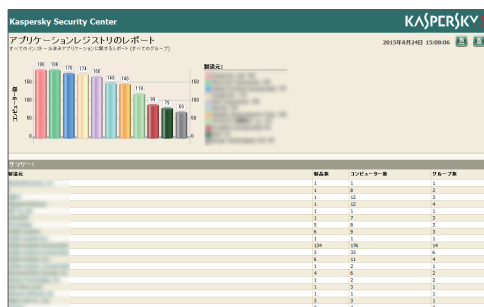
業務内容に即したセキュリティポリシーを細かく運用。 ユーザーに負担を感じさせることなく「安全」を維持

こうしてカスペルスキーの2製品をアップデートすることになったシャノンでは、以前にも増して端末の統合管理環境をきめ細かく整えることが出来るようになったと、シャノン 佐川友香氏は言います。

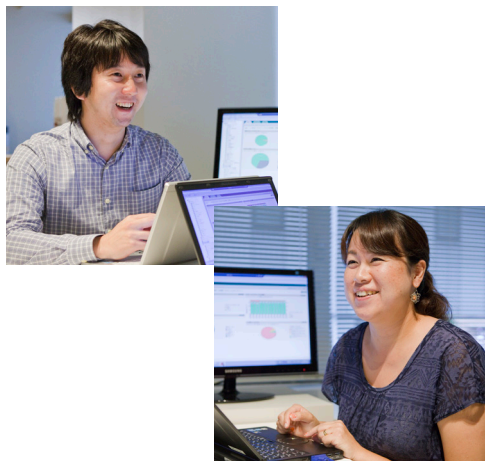
「元々、Kaspersky Security Centerの管理画面が非常にシンプルでした。私自身、カスペルスキー製品に触れるのが初めてでしたので、グループごとにセキュリティポリシーを振り分ける画面でも、初期設定では部門の業務内容に応じてポリシーを細かく設定することはできないと考えていました。しかし、ポリシーの機能を学びながら、カスペルスキーのサポートに相談を行ったところ、部署ごとの業務に合わせたセキュリティポリシーを構築し、運用することが出来ると分かったのです」

その後シャノンでは、業務に即したセキュリティポリシーを策定するために、約1か月かけて、社内の各部署にインタビューを実施。各部署の業務に即したセキュリティポリシーを用いた運用が開始されている今では、「人事異動があった場合でも、すぐに、該当社員のPCに適用するポリシーを変更できる」と、佐川氏は続けます。

「セキュリティポリシーなどの設定を個人に任せてしまうと、忙しさゆえに設定が後回しにされたり、忘れられるといったことも発生するでしょう。しかし、Kaspersky Security Centerから統合管理しているために、適用の遅れや漏れは起きません。ユーザーにとっても、手間なく、社内の安全基準に沿うことが出来るので、好評です」



「アプリケーションレジストリのレポート」画面。全体のステータス統計からリスクを分析、次の対策を検討する



KASPERSKY

<問い合わせ先>

株式会社カスペルスキー

〒101-0021

東京都千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル7F

<http://www.kaspersky.co.jp>

jp-sales@kaspersky.com

© 2015 Kaspersky Lab. All Rights Reserved. その他記載された会社名または製品名などは、各社の商標もしくは登録商標です。記載された内容は、改良のため予告なく変更される場合があります。

こうしてセキュリティポリシーを細かく策定し、管理環境を構築することで、「業務も円滑になる」と、藤倉氏は言います。

「社内にある端末に、すべて同じセキュリティレベルを要求すると、重要情報を扱う部署に合わせてガチガチに、一律の機能制限をかけることになるでしょう。しかし、それを行ってしまうと、部署によって業務そのものが阻害されてしまう可能性だってあります。たとえば、USB接続のバーコードリーダーを使用する部署もありますし、別の部署では、日々さまざまなキャンペーンサイトや、バナー広告から誘導されるさまざまなWebサイトなどを確認する必要もあります。日々の業務に負担をかけることなく、セキュリティを徹底できるのがとても良いですね」

ソフトウェア資産管理や、「疑わしき」ソフトの リモート削除など、さらなる充実環境の導入を検討

最後に、藤倉氏は言います。

「今後は、社内のソフトウェア資産管理にも本格的に取り組んでいこうと思います。資産管理のためのソフトは多種多様に存在していますが、ほんの少しの機能差で導入コストが大きく変わりますし、中には、当社では使う理由のない機能も数多くあります。それならば、Kaspersky Systems Managementを追加導入して機能を拡張する方が、よほど投資対効果に優れています」

Kaspersky Security CenterとKaspersky Systems Managementを組み合わせることで資産管理以上のメリットが得られると、氏は続けます。

「Systems Managementを追加すれば、社内のソフトウェア資産が把握できるだけでなく、その脆弱性まで管理できます。ちょっとでも『疑わしい』あるいは会社として『好ましくない』ソフトウェアが見つかったら、管理画面から削除できる機能まであるのも魅力です。今後もカスペルスキーには、より良い機能を充実させてくれることを期待しています」

「サイバーセキュリティの徹底による効果を数字で表すのは難しいですが、この4年間、当社のビジネスがセキュリティ インシデントによって妨げられることがなかったと言うのは、非常に大きな導入効果だったと思います。当社の事業規模が拡大し、セキュリティへの要求事項も格段に増えていることを考えれば、これはとても素晴らしい成果だと思います」

株式会社シャノン
藤倉 和明 氏

「ほんの少しでも分からないことがあれば、サポートセンターの方々が親身に対応してくれます。本当に、私のカスペルスキー製品に対する知識がゼロだった時でも、懇切丁寧に教えていただき、非常に助かりました。そういった点からも、自信を持ってほかの方々に勧められますね」

株式会社シャノン
佐川 友香 氏